

## MS&ADホールディングス 電話会議（2020年8月7日開催） 2020年度第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年8月7日に実施した決算説明電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。  
なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MS Amlin：AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計

[AUL(MS Amlin Underwriting Limited)、AAG(MS Amlin AG)、  
AISE(MS Amlin Insurance SE)、ACS(MS Amlin Corporate Services Limited)]

ReAssure：ReAssure Group Plc

- Q1： 四半期純利益は966億円と通期業績予想に対して74.3%と高い進捗率を示していますが、現時点での評価を教えてください。
- A1： 2つの特殊要因により高い進捗率になっています。1つ目は関係会社株式（ReAssure社）の売却損失引当金の戻入81億円が特別利益に含まれていること。これは3月末以降に取引の対価である株式の時価が上昇したことを取り込んだものです。年初計画には含まれていません。2つ目は国内の会社に連結納税制度を導入する申請を提出したことによる影響203億円が含まれていることです。
- Q2： 海外事業の第1四半期グループ修正利益はマイナスになっており、通期の目標に対して遅れているようにみえますが、その要因について解説してください。
- A2： 海外子会社の大半については、2020年1～3月の決算を今回つないでいます。特に資産運用面においては、2020年3月末の金融マーケットが低下局面にあったところを連結していることから第1四半期の進捗が悪くみえています。通期の計画では3月末以降の戻りを一定織り込んでいます。
- Q3： 英FCAによる利益保険の確認訴訟手続きの状況について、アップデートしてください。
- A3： 2020年7月30日にFCAの審問が終了しました。FCAは早期解決を目指しており、8月中に判決が出ることを希望している模様ですが、論点が多く裁判官が確認する書類が膨大であり、高裁の判決は9月中旬頃になる可能性があります。また、高裁での判決が出ても最高裁への上訴が認められているため、最終的な判決が確定するまでには更に時間を要する可能性があります。
- Q4： 資料12ページに記載の、新型コロナ関連の発生保険金について教えてください。第1四半期の発生保険金は140億円とのことですが、海外を中心に200億円というのが通期の見通しだったかと思います。こちらの進捗状況は計画どおりでしょうか。

また第 1 四半期にかなり保険金を積んでいる会社が欧米では目立ちますが、貴社の見通しは、通期予想を発表された 3 か月前から変わっていないのでしょうか。

あわせて、貴社の方針としては契約上保険金支払の義務が明確なもので見積りを立てられているかと思いますが、もし契約上曖昧な部分についてのリスクを含めた場合、200 億円の見通しからどの程度まで増える可能性があるのか、教えてください。

A4 : 第 1 四半期の進捗としては、ほぼ計画どおりです。今後の見通しについては、各地の約款解釈などが確定していないため、不透明なところがあります。ただし、当社の約款解釈に変更はなく、現時点で見通しを変えるべきものではないと考えています。

変動幅の水準感としては、例えば英国の利益保険の元受契約については、英国で行われている FCA と保険会社との裁判において、FCA 側の主張がかなり認められるような判決となった場合も、上振れの範囲は数十億円ではないかと予想しています。

その他、再保険や信用保証保険などは、今後の経済活動への影響や各国での約款解釈の判断がどのようになるかによって変わり、見通しがより難しいのですが、5 月の発表時にも一定の金額を織り込んでおり、現時点では、その見通しを変更する状況にはないと考えています。

Q5 : 令和 2 年 7 月豪雨による発生保険金について、通期の自然災害予算に比べてまだ十分余裕があるとは思いますが、7 月末までどの程度進捗しているご認識か教えてください。

A5 : 資料の 12 ページに、参考として、令和 2 年 7 月豪雨による保険金支払の見込額を記載しています。当社グループ元受 100%、他社幹事契約を含まないベースで、280~330 億円の見込みです。元受 100%ベースですので、再保険を加味すれば金額は小さくなりますし、他社との共同保険のシェアも含まれた金額です。

Q6 : 資料 15 ページ目の国内自動車保険に関して、EI 損害率がこの 4~6 月は大幅に改善していますが、通期見通しに対して利益面で上振れている部分があるのか教えてください。

また、EI 損害率の計算方法に関して、MS の自動車（対人）は直近 1 年の損害率を用いた簡便法を適用していたと思いますが、その理解でよろしいでしょうか。

A6 : 自動車保険に関しては、事故受付件数が想定を上回って減少していることから、計画対比で EI 損害率が低くなっています。ただし、通期では、インカードベースでよいところの相当部分は異常危険準備金の取崩しが減ることにより、財務会計利益には直接は効かないと考えています。

なお、四半期のインカードロスの算出方法に関して、MS では損害率法による簡便法をとっていますが、今回自動車保険（対人）と傷害保険に関しては、足元の事故受付件数の減少を反映するように調整しています。

Q7 : 昨年度は第 1 四半期に再保険コストが集中していましたが、今期はどうだったのでしょうか。

A7 : 年初業績予想で申し上げた約 200 億円の再保険コスト増加のうち、再保険料は半年払いが

多いことから第1四半期は約100億円の増加となりました。

Q8： 第1四半期決算を踏まえて、通期の海外保険子会社の保険料の見通しを教えてください。

A8： 第1四半期決算の海外保険子会社の保険料は今のところ予定どおりの進捗です。通期の保険料予想については、年初に新型コロナの影響を一定織り込んで出していますが、今のところ極端に保険料が落ちるといった動きはありません。

SQ8： 欧州の保険料が約9%の減収となっています。レートアップがあるけれども現在取り組んでいる不採算案件の見直しはマイナス要因になっているだけと理解してよいでしょうか。

SA8： 欧州の保険料は、レートアップ等がある一方で、為替影響と不採算種目・非中核分野からの撤退が減収の主因になっています。

Q9： 損保2社のEI損害率について、「その他」「海上」の悪化要因を教えてください。

A9： 「その他」は、新種保険でMS、ADとも大口事故が増加していること、また、外貨建て支払備金に係る円高影響（インカードロス減少）が前年の第1四半期のほうが大きかったことによります。

「海上」は、四半期決算は損害率を使った簡便法で計算しているため、大口ロスがあった昨年度の高い損害率が影響しています。

Q10： 自動車保険は、EI損害率は7ポイント改善していますが、WP損害率（リトンペイド損害率）では約4ポイントの改善にとどまっています。この差の理由を教えてください。

A10： EI損害率は発生ベースですので、WP損害率よりも先行して表れる指標といえます。新型コロナによる環境下でも支払はしっかりできていますので、WP損害率も今後下がるとみています。

Q11： 再保険コストの通期の増加額が約200億円との見通しだったと思います。グラフにある再保険コストの平準化の影響額146億円には、この通期の増加額の4分の1の約50億円が含まれていますか。

A11： 資料9ページのグラフに記載している再保険コストの平準化の影響額は、責任期間が事業年度末に終了するELC出再保険に係るアード保険料について四半期の配分方法を見直したことによる影響額です。年度決算には影響ありません。

年間で約200億円増加とした再保険コスト（アード保険料）のうち平準化により、第1四半期で約50億円が負担となりますが、これは平準化の影響額146億円に含まれています。

Q12： 資料18ページの海外生保の四半期純利益のマイナスの要因を教えてください。

A12： 多くの海外会社について3月の決算を連結している関係で、3月の金融マーケットの変動の影響を大きく受けています。海外生保の中にも時価の変動を直接PLに反映する会計処理を

とっている会社があり、その影響がここには含まれています。

Q13 : 新型コロナ影響について、当期純利益影響や発生保険金は期初見込んでいた金額に対して、おおむねインラインとのことですが、資産運用益については、直近の環境を踏まえて上振れ、あるいはもう少し下振れリスクがあるというような示唆が何かあれば教えてください。

A13 : 資産運用損益の新型コロナ影響については、年初予想では国内外含めて▲600億円とおいていました。このうち国内については、年初予想時よりも株価等が上昇していることもあり、年初想定を若干上回って堅調に推移しています。

一方、海外については、時価の変動をそのままPLにも反映させる会計処理をとっている子会社があって、今のところは3月末からの一定の運用環境の好転を織り込んだ業績予想のとおりではあるものの、変動のリスクがあることは従来と変わりません。

Q14 : MS Amlinの新型コロナ関連インカードロスについては、年初予想¥135M(年間)に対して第1四半期の進捗が高いように思いますが、計画どおりと考えてよいでしょうか。

A14 : 新型コロナ関連インカードロスが第1四半期で(年初予想を超えて)大きくなっているということはなく、進捗としては計画のとおりです。一方、先行きの不透明感、(利益保険などの)契約の取扱いの不透明感といった、一定の変動のリスク要素があることは年初と同様です。

以上